

「ベッド満床」について ③

○ しかしながら、

- ・ 救命救急センターのベッドの稼働率に、繁閑の差があり常に変動している。
 - ・ 病床利用率が100%に近い施設も存在する
- ことを考えると、時期や時間によって、または、個々の施設によっては、物理的に「ベッドが満床」である状況が発生しているものと推定される。

○ さらに、空きベッドがあるものの、

- ・ 「患者に適した診療機器が備わったベッドがない」
 - ・ 「十分な看護体制を確保したベッドがない」
- 等といった意味で「ベッド満床」として報告している場合もあると推測される。



救急医療機関が円滑に救急搬送を受け入れるには、これら「ベッドの満床」について、より詳細に実態を把握する必要がある。

6

救急医療機関が受入に至らなかった理由としての「ベッド満床」の理由

A. 物理的に満床である

いわゆる
「ベッド満床」
の理由

B. 物理的には空床がある

1. 病院全体が物理的に満床である。

- (1) 常に満床
(そもそも病床が少ない。転院や退院が滞っている。等)
- (2) 時期、時間によって希に満床

出口の問題

2. 救急部門の病床は満床であるが、一般病床には空床がある。

- (1) 常に満床
(そもそも病床が少ない。一般病床・病院への転床・転院が滞っている。等)
- (2) 時期、時間によって希に満床

1. 救急部門に空床はあるが、その患者にふさわしい病床が空いていない。
(CCU、SCU等の利用区分を設けている。)

2. 空床はあるが、人手(看護師等)、医療器材の整った病床がない。

- (1) 救急部門にない。
- (2) 一般病床にない。

3. その他

- (1) 受入を断る理由を使った。
- (2) 消防への情報伝達過程の誤解である。
- (3) その他
(例: 特別料金のある病床のみ空いている。
男性、女性の別により、適切な病床がない。)

7